

令和6年度 第2回 浅間小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年10月11日（金） 午後1時30分から午後3時25分まで
- 2 開催場所 浅間小学校 南校舎2階 会議室
- 3 出席委員 高橋 与人、市原 美智恵、鈴木 秀志、松原 紀彦、伊藤 元之、岩崎 香織
- 4 欠席委員 鈴木 明子、岡本 弥佐
- 5 オブザーバー 加藤 晴康（南部協働センター所長）
- 6 学校支援コーディネーター 鈴木 由紀、佐藤 穂
- 7 学 校 鈴木 啓二（校長）、土屋 里佳（教頭）、宮崎 由季（教務主任 教育課程担当）、山田 幸輝（CS担当職員）、大石 文穂（CSディレクター）
- 8 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課 地域連携グループ 指導主事）
- 9 傍聴者 なし
- 10 会議録作成者 CSディレクター 大石 文穂
- 11 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、前回の協議会での話し合いの通り、高橋副会長を議長に推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

12 協議事項

- （1）「やさしさいっぱい活動」について
- （2）子供たちが夢や希望をもつことができる活動について

13 会議記録

司会の教頭から、委員総数8人のうち6人の出席があり過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）「やさしさいっぱい活動」について

協議会に先立ち5時間目の「やさしさいっぱい活動」の授業参観を行った。その後、議長の指示により、教頭より添付資料に基づき、本年度の「やさしさいっぱい活動」について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ 2年生と4年生の活動を参観したが、教員の意図をきちんとおさえた活動ができていると感じた。子供たちにも定着してきているのではないかと。（鈴木会長）
- ・ 活動の目的や内容などを事前に把握した上で参観すると委員の理解も深まるので、運営協議会前に活動の詳しい説明が欲しかった。（松原委員）
- ・ SNSでのコミュニケーションが増え、子供たちも人との関わりが減る中、将来苦労しないか心配している。ソーシャルスキルトレーニングの一環として、学校でのこのような取り組みは望ましい。（伊藤委員）
- ・ 各家庭でのコミュニケーションの取り方も様々だろうが、学校の活動について紹介をし、家庭でも実践できるように連動させられたらいいと思う。（高橋副会長）
- ・ 子供たちはお互いに自分の気持ちを伝えることが苦手。活動をきっかけに、自分の思いを人前で話す機会を増やし、クラスの友達の良いところを知ることができれば、お互いに認め合えるようになるのでは。（市原委員）
- ・ 学校が「やさしさいっぱい活動」に期待することは何か。（高橋副会長）
 - 年3回の「やさしさいっぱい活動」はあくまできっかけで、日々の生活で子供たちに活動を通して学んだことを振り返らせたり、自然と行動できるよう促したりしたい。（校長）
- ・ 家庭でのコミュニケーションに関しては、我が家は子供たちがいろいろと話をしてくれるの

で、親子間の会話は多いほうだと思う。また、サッカー少年団の保護者の横の繋がりもあるため、いろいろと情報共有でき、子育てしやすい環境だと感じている。(岩崎委員)

- ・ 子供が小さい頃から親がどれだけ関わっているか、普段から子供のことを見ているかも、コミュニケーションの取り方に影響はあると思う。(伊藤委員)
- ・ 学年ごとによく考えられた、コミュニケーションの本質を学べるプログラムだと感心した。コミュニケーションを取るのが苦手な子とどう関わっていくかは、学校だけでなく家庭や地域の課題。(高橋副会長)
- ・ 家庭でも忙しさを言い訳にせず、親御さんから子供に話しかけ、また、子供の話を傾聴しようという姿勢で向き合ってもらえれば、コミュニケーション能力も育まれると思う。(鈴木会長)
- ・ 子供が自己肯定感を高めることができるよう、一人ひとりの良さや違いを伝えていくことを活動のベースにしたい。(校長)

(2) 子供たちが夢や希望をもつことができる活動について

議長の指示により、教頭より、グランドデザインのキャリア教育につながるよう、地域と連携した講演会や様々な職業紹介、会社訪問などを行っている旨の説明があった。各活動に関して意見を募ったところ、委員からは以下の発言があった。

- ・ 今回参観した6年生の講演会では、講師の方が子供たちに寄り添うように話をしていたのがとても良かった。(鈴木会長)
- ・ 今後も子供たちの希望の多い身近な職業について、年に1～2回くらい紹介できると良いと思う。(松原委員)
- ・ 活動後、子供たちからどのような反応があるか。(高橋副会長)
→ 講師の方の生の声を直接聞くと、子供たちの心に大きく響き、記憶にも残っていることを感じる。(教頭)
- ・ 将来の夢があればそれに向かって努力するので、夢を持つことはとても良いこと。この活動が子供たちの後押しになることを期待したい。(伊藤委員)
- ・ 社会にはいろいろな仕事があるよ、今将来の夢が思いつかなくても大丈夫、いつかやりたいことがきっと見つかるよ、と子供たちには可能性を示して希望を与えてほしい。(市原委員)
- ・ 自分が将来どうなりたいのか、につながる情報をたくさんある中から見極める力もつけてほしい。(岩崎委員)
- ・ 学校と地域が連携した素晴らしい活動なので、今後もぜひ続けてほしい。また、コーディネーターの方が人材探しなどを支援してくださると聞き、尽力に感謝している。(高橋副会長)
- ・ 子供たちは地域の行事へ参加したり、お店を訪問したり、地域の皆さんにはいろいろな体験をさせていただいており、私にもとても嬉しそうに報告をしてくれる。子供たちが夢を持つことができるように、引き続きご協力をお願いしたい。(校長)
- ・ 協働センターでも、学校・地域の課題解決とマッチングする各種イベントを企画しているので、ぜひ利用してほしい。(加藤オブザーバー)

浅間つばめ応援団の活動報告

議長の指示により、CSコーディネーターよりつばめ応援団の前期ボランティア活動報告があった。

その他連絡事項等

(1) 次回開催日時について

司会から、第3回協議会は令和7年1月29日（水）午後1時30分から、南校舎2階会議室で開催する旨の連絡があった。

(2) 第3回協議会の議長選出と熟議内容について

司会から、次回協議会の議長の選出について委員に意見を求めたところ、委員より伊藤委員を議長に推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。また、次回の熟議内容については、以下の内容の提案があった。

- ・学校運営協議会自己評価について